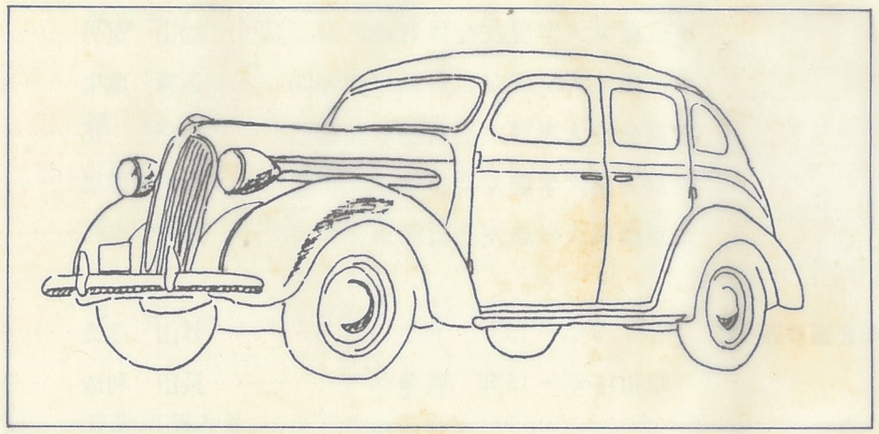
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AUTOMOBILE CLUB

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE
AUTOMOBILE CLUB

東京農業大学自動車部 創立50周年記念 全国一周リレー号
東京農業大学

PLYMOUTH 37



プリムス37について

プリムス37年は、昭和33年に我が自動車部部車として登録された。この年代の車は戦中木炭車に改造されていたが、宮内庁で使用されていたこの車は改造をまぬがれた数少ない一台であった。砲弾型ヘッドライト、サイドステップ付きで、車内は後部座席に対面して２つの座席の付いた８人乗りで、皇族や国賓の送迎に活躍したものと思われる。スマートなスタイルと、広い室内に撮映カメラ持ち込みが容易な為、農大近くの東宝、新東宝映画に撮映用として重宝され、自動車部の財政に大きく貢献した。

目　　次

発刊にあたって　東京農業大学農友会自動車部OB会会長　片岡　二郎 …… 1

挨拶　祝詞
東京農業大学農友会自動車部部長 …… 淡谷　恭蔵 …… 2
東京農業大学学長 …… 鈴木　隆雄 …… 3
東京農業大学農友会体育連合会会長 …… 端山　重男 …… 4
東京農業大学農友会自動車部顧問 …… 近藤　典生 …… 5
東京農業大学農友会自動車部顧問 …… 小林　正 …… 6
東京農業大学農友会自動車部監督 …… 村田　信雄 …… 7
東京農業大学農友会自動車部主将 …… 大野　喜裕 …… 8

50年を振り返って
昭和 9年～13年　発足のころ …… 外山　達夫 …… 11
昭和14年～16年　戦争へ …… 長田　利造 …… 14
思い出 …… 増田　千秋 …… 17
終戦～昭和29年　自動車部再建 …… 石見　良勝 …… 18
昭和30年～34年　思い出の部室 …… 揖斐　昭子 …… 19
昭和35年～39年　活動の基礎 …… 片岡　二郎 …… 23
昭和40年～44年　黄金時代 …… 三箇　滋 …… 25
昭和45年～47年　部室移転 …… 叶野　力 …… 27
昭和48年～50年　チームワーク …… 北出　友美 …… 29
昭和51年～55年 …… 31

アフリカ縦継 20,000km　ジャンボアパーナ …… 山縣　高一 …… 33

歴代役員名鑑 …… 39

メタセコイヤの木　部室 …… 47

心に残る部車 …… 49

新春ラリー …… 55

遠　征 …… 63

合　宿 …… 71

対　外　戦 …… 73

自動車部と私 …… 77

創立50周年記念全国リレードライブ …… 79

リレー号の轍 …… 87

ブロック表 …… 105

創立50周年記念式典・祝賀パーティー …… 107

名　簿 …… 111

東京農業大学農友会自動車部創部５０周年記念誌
“プリムス　３７”発行にあたって

東京農業大学農友会自動車部ＯＢ会会長　　片岡　二郎

東京農業大学農友会自動車部は昭和９年１１月、農友会自動車研究会として発足致しました。

発足の趣旨は国、大学及び父兄の農業機械化推進、整備技術、知識の普及への強い要望であり、５０年を迎える今日でもこの趣旨は変わらず、農業の機械化、近代化へ微力ながらその一翼をになっています。

近年はモータリゼーションの普及にともない、全日本学生自動車連盟主催の各種競技への参加を通じ、正しい自動車運転の啓蒙運動を展開さらに交通事故防止全国チャリティーキャンペーン、献血運動、交通遺児育英資金募金運動等の対外的活動等を行っています。部内においては、３６年から毎年全国大学ラリーのトップを切って行われる農大新春ラリーを現役部員が一丸となって企画運営、さらにスポーツとしての自動車部を基盤とした日々の活動や合宿等を行なっています。

しかし、５０周年を迎える今日迄の道程は決して平担ではなく、第２次世界大戦当時部品や燃料不足、ＯＢの戦争出兵、そして戦後は、ガソリン不足、練習コースの確保、部車の整備維持、工具の調達、日進月歩する自動車技術の修得等他の運動部と異なる運営の難しさが存在しました。

５０年をここに迎えるに当って、ＯＢの方々がその青春をぶつけて築いた自動車部の歴史を末長く残し、次への新しいステップのため記念誌“プリムス37”をここに発行いたしました。

この記念誌が、もう一つの５０周年記念行事である“日本一周リレードライブ”が作った全国ＯＢの大きな輪と共に、次の農大自動車部５０年への再スタートラインとなる事を念願いたします。又５０周年記念行事を行なうに当り御援助戴きました、東京農業大学学長はじめ諸先生方、校友会及び資金援助を戴きました会社の方々に感謝申し上げます。

ご挨拶

東京農業大学農友会自動車部々長
淡谷　恭蔵

この度、農友会自動車部の創立50周年という半世紀の歴史の節目を迎える時に部長を勤めさせていただける事を本当に嬉しく光栄に思っております。

自動車部が幾多の障害や苦難を乗り越え50周年を迎えられたのは、近藤先生や小林先生をはじめとする歴代部長の御指導と、自動車部の草創期に礎を築いていただいた戦前のＯＢを頂点として、今日までに御卒業された300人余りの諸先輩方の努力の賜物と深く敬服し感謝する次第であります。

また各種競技大会でライバルとなりました全日本学生自動車連盟、武蔵野学生自動車連合加盟の全国大学自動車部の同好の方々、新春ラリーに代表される諸行事を側面から応援していただきました協賛会社の方々や部活動を暖かく見守っていただきました御父兄の皆様、これら自動車部を育てていただきました多くの皆様に対しましても厚く御礼申し上げます。私はこれらの方々の引かれた軌跡の延長線上を歩んだにすぎません。

申すまでもなく自動車部は、現代文明の最大の利器であり、扱いによって凶器ともなりうる自動車を駆って活動する農友会体育連合会でも特殊な存在であります。御承知のとおり現在の自動車部を取りまく諸般の事情は決して穏やかなものではありませんが、部活動の本質を見失なわぬように、この50周年を期にさらに自動車部が発展するよう、現役部員共々一層努力する所存でございます。

つきましては今後共、皆様には変らぬ御指導と御鞭達を賜わりますようお願いしまして御挨拶とさせていただきます。

祝　詞

東京農業大学学長
鈴木　隆雄

農友会自動車部の皆様創立５０周年おめでとうどざいます。

自動車部が創立５０周年を迎えたと言うことは昭和９年に創設された訳ですが、昭和９年は私が本学東京農業大学に入学した年であり私も間接的に自動車部５０年の歩みを見ていたことになります。

私のクラスの中にも自動車部に入部していた人も居り、私も自動車部のフォードで銀座をドライブした思い出があります。

５０年の歴史と一口で言ってもこの間には色々な苦難があったろうと思います。歴代の部長先生、あるいはＯＢの方々の助けで今日の自動車部となったと思います。

創部５０周年の記念行事として、全国ＯＢの方々による日本一周リレードライブと言う素晴らしい企画がなされ、自動車を一つの共通軸とし年代を超越して自動車部をかたり合う輪が全国に出来ることは、今後の自動車部の益々の発展に連らなることを意味していると思います。

農友会には多くの部がありそれぞれ長い歴史を重ねて活動を行っておりますが、その内でも自動車部は、自動車という科学の粋を集めた精密機械の集合体を一つの媒体として運営されているクラブです。自動車は科学の進歩で確実に進歩しています、この自動車を動かす人間もこの進歩に合わせないと調和という進歩はありえません。自動車と人間、このどちらかのペースが狂うと調和がくずれ部活動そのものが成り立たなくなります。自動車部の方々は、この調和をみごとになしとげ５０年の積み重ねを築き上げられたと思います。今後も、このみごとな調和の上に立って次の５０年へ向って下さい。

自動車部創立５０周年本当におめでとうございます。

ご挨拶

東京農業大学農友会体育連合会会長
端山　重男

自動車部創立５０周年、誠におめでとうございます。

一口に５０年といいましても、その５０年の中には、戦争もあり非常に苦難の連続であったことと思います。もちろん素晴らしい記録も数々残されている事も承知しております。苦難の壁を乗り越え今日の自動車部が創り上げられたのは、ＯＢの方々のご努力が多大と思います。ＯＢの方々の和、まとまりが、この５０年を築き上げたといっても過言ではないと思います。

５０周年を記念しての全国一周リレードライブという自動車部ならではの素晴らしい企画に改めて敬服しておる次第であります。これも、全国ＯＢの方々の和の精神をもってしなければ成功出来ない事だと思います。

この全国一周のリレードライブが、どうか無事に、そして、成功裡に初期の目的を達せられます様祈願致しまして、私のご挨拶に替えさせていただきます。

（58.11.3　リレー号出発式挨拶より）

ご挨拶

東京農業大学農友会自動車部顧問
近藤　典生

今日、自動車部創立 50 周年全国一周リレードライブの出発式の当日、ご挨拶をさせていただくことを大変うれしく思っております。

自動車部が創部された時私は学生でありました、親しい友人が自動車部を創ったものですから、部員ではなかったのですが、自動車部の幌型フォードでよく練習をさせていただきました。このフォードは終戦後まで維持されていて、自動車部が動き出したのです。私は昭和２３年に農大に戻って参りまして、さっそく自動車部の方々から部長になれといわれ、数年間部長をやらせて頂きました。その間私は、自動車部の方の協力を得まして、１９６１年に日産車でアフリカをケープタウンからカイロまで縦断いたしました。おそらく日本人で陸路縦断したのは私達が初めてであったろうと思います。この大遠征が成功したのも、自動車部の山懸高一君が同行してくれ、自動車の面到を一切見てくれるなど、自動車部の方々のご協力の賜物に他ならないのです。また、この時に日本テレビのカメラが同行しました。これが日本のカラーフィルムによる海外取材の第一号でございます。従って、我が農大が、農大関係の自動車でアフリカを縦断し、それをカラーで全国に放送させた訳なのです。私が部長を辞めさせていただいた後、小林部長、現在の淡谷部長と引き継がれまして、今日晴れの５０周年記念の全国一周リレードライブが始まる訳ですが、どうか東京農業大学と、農大自動車部の存在を全国に広めて頂きたいと思います。どうぞこれに参加されます皆さん方は、充分に交通事故その他に気を付け、しかも愛車精神をもって新車そっくりの形で、１年後ここに戻ってきていただくことを念願いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

（58.11.3　リレー号出発式挨拶より）

ご挨拶

東京農業大学農友会自動車部顧問
小林　正

農友会自動車部創立５０周年に際し、心よりお祝いを申上げます。

私が当時の近藤部長に呼ばれまして」「自動車部々長を引き受ける様」に言われまして「これは大変な事になった，私にはいささか荷が重すぎる」と思い，お断り申し上げたのですが「若さで是非やってみろ」といわれ部長をお引き受けした訳であります。その頃を想い出してお話ししたいと思います。

自動車社会が順調に発達してきた良き時代のひずみが，私の部長時代にいろいろと起ってきた訳であります。と申しますのは，各大学ラリーで事故が相次ぎ、新聞等により厳しい批判を浴びました。そして学生自動車部は自動車競争そのものに対し意欲を失いかけておりました。私が武蔵野学生自動車連合の会長を引受けたのはその様な状況下でした。武連前会長との話し合いで「ラリーはもちろん、全ての競技を中止した方が良いのでは」という話が出た訳です。私はうちの部員、役員との会議で「これから益々自動車を主軸とした社会が発展し、交通事故、公害問題等多くの問題を抱えた中での大学自動車部活動はいかにあるべきか」話し合いました。そして敢然と新春ラリーを開催し各競技を続けたのであります。これは近藤前部長とＯＢ諸氏のたゆまぬ努力、そして明確な目的を持って精進された結果であると今更ながら驚いている次第です。その後私は農友会総務部長となり、自動車部は淡谷先生の下で益々発展し、ここに５０周年記念行事を企画されました。今後とも部長、現役、ＯＢ一丸となって日々精進される様希望し私の挨拶とさせていただきます。

（58.11.3　リレー号出発式挨拶より）

監督挨拶

東京農業大学農友会自動車部監督　村田　信雄

農大自動車部創立５０周年おめでとうございます。

この良き日を監督という立場で迎えられる事を大変名誉な事と感謝致しております。

私は昭和４１年農大に入学と同時に、久米正毅先輩を主将とする自動車部に入部、昭和４５年３月卒業の後も何かと自動車部とは関係が深く、４８年コーチを拝命、５７年斉藤徳彦監督の後任として辞令を受け、今日に至っています。

本格的なクルマ社会の初めに私が自動車部に入部し、自動車と共に過した18年間に車の性能は想像以上に向上しました。しかし運転マナー、技術等は、この性能に付いて行けないのが現況です。今、自動車部はこの様なクルマ社会の中にあります。又、学生クラブ活動の域から出て一般社会で活動することの多い自動車部は、万一問題を起した場合社会的な事となり、その責も重いものが予想されます。

大学でのクラブ活動の原点は心身の鍛練であります。学生生活が多様化し、旧体依然としたクラブ活動が若者に受け入れられない中で、自動車部の活動は少しずつ変っている様に感じられます。

大学自動車部が今後より発展して行くには、このあたりで少しクラブ活動の見失われつつある原点へ回帰する必要があると思います。

利己的で索漠とした味気のない学生生活を送る事のないように、一人でも多く豊かで実りある学生生活であるように。

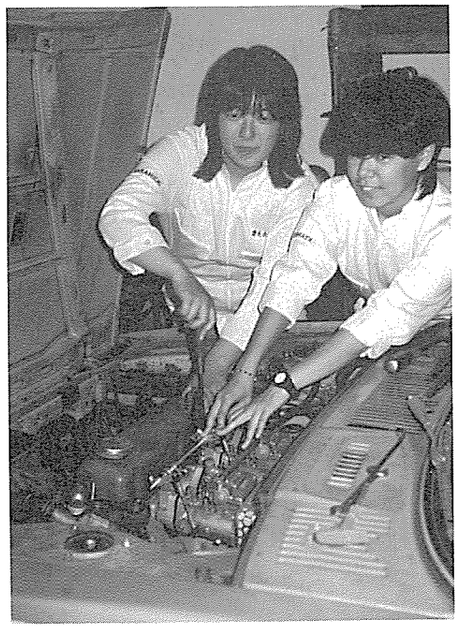
創部５０年を迎えた事を機会に、５０年の現在があることを現役部員と共に、先生方・先輩諸氏に感謝し、５０年後の創部１００年に向かって、質実剛健に進みたいと思います。

主将挨拶

昭和59年度主将　大野　喜裕

東京農業大学農友会自動車部が創部50周年を迎えるに当り、諸先輩方に心からお祝い申し上げると共に現在の部活動についてご紹介させていただきます。

自動車部が創部50周年を迎えることは、ひとえに歴代ＯＢの方々の情熱と努力、愛部愛車精神のたまものと敬服致します。そして50周年を現役部員として迎えられることに喜びと重責を感じております。



なかなかの吹き上りです!!

認証工場級のピットにて

全国大学自動車部の中でも50年を迎える自動車部は数校にすぎず、あらためて我々農大自動車部の偉大さを感じます。

諸先輩が車、燃料、部室の確保に大変努力をされたことを聞き、またその努力によって得ることができたすばらしいピット・部室で部活動を続けられることを大変嬉しく、誇りに思います。

現在自動車部員は総勢38名、部車12台（有車検車６台）で部活動を行なっております。

部活動は対外的にはフィギア競技、ダートトライアル、ラリー、整備競技大会、ジムカーナ等全日本学生自動車連盟および武蔵野学生自動車連合主催の公式競技に出場、部内では農大新春ラリーの企画運営、春夏の定期合宿および遠征等が主行事です。

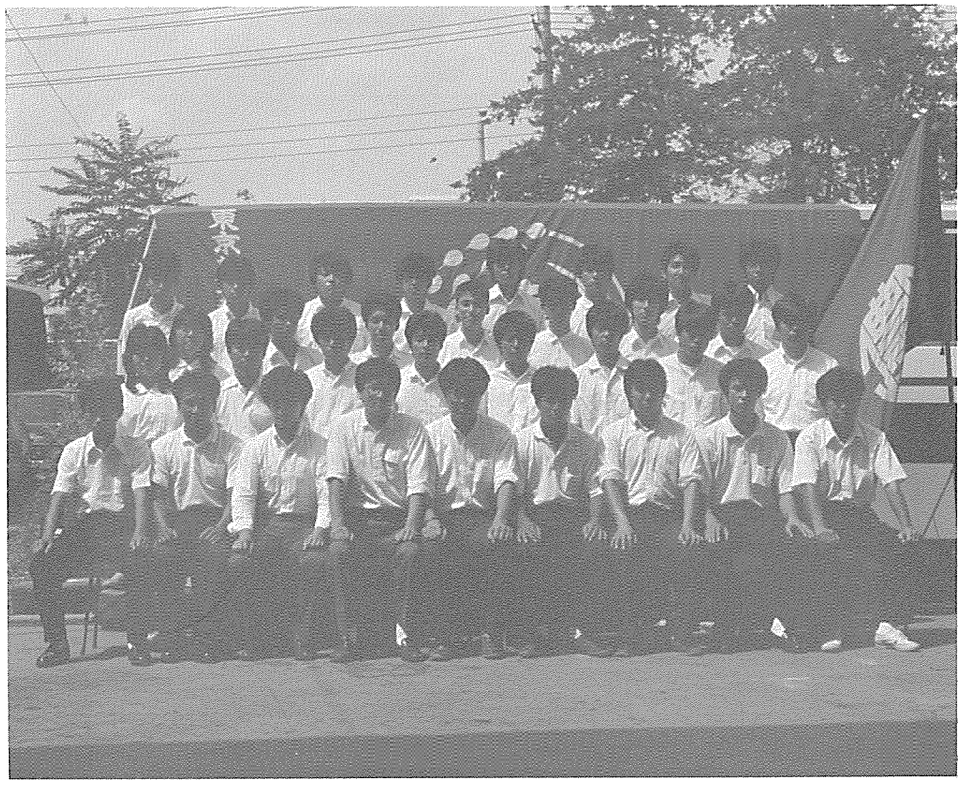
現在は部費2,000円と学校からの部活動費で運営しておりますが、自動車税、保険等出費も多く資金的に苦しい状況です。しかし数回にわたりＯＢ会からの

援助をいただき、また運営面においても部長、監督、コーチのご指導を受け無事故で部活動を続けております。

この度、50周年記念行事の一環として、全国の先輩がリレーされた日本一周リレー号を部車として載けることになり、ＯＢの声援と真心のこもったこの車を大切に保存すると共に、今後の部活動で大いに戦力として使用させていただきます。

調子はどうかな、しっかり走って下さいよ！

“タイガー計算器” ラリーの基礎は今でもこれ

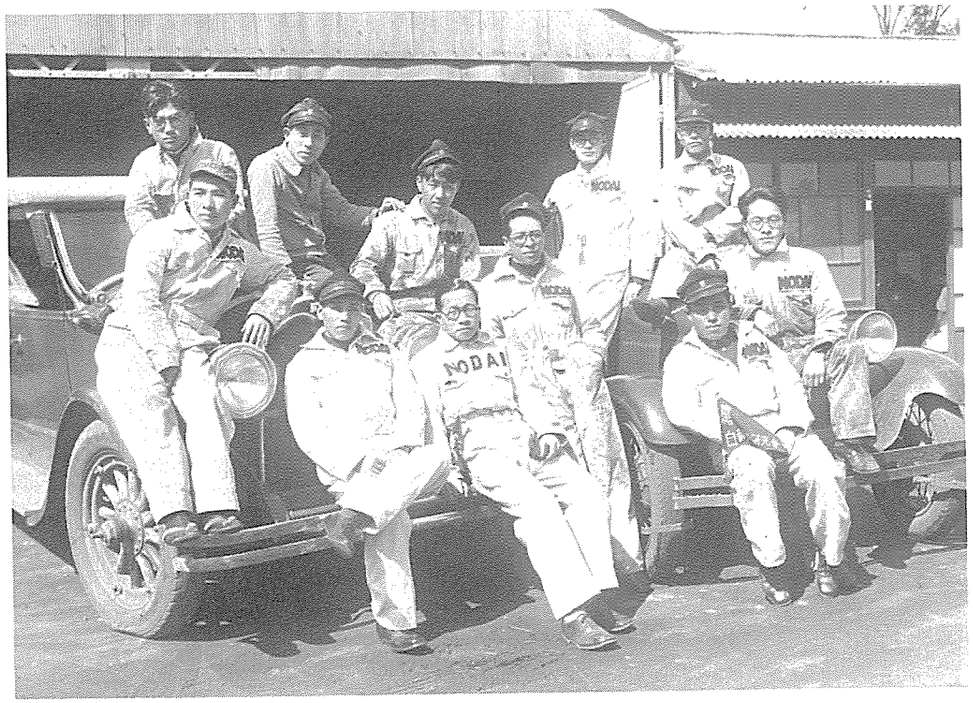


昭和５９年　　現役部員

50年を振り返って　—昭和９年～13年—

発足のころ　　昭和12年卒　外山　達夫

現在部員はどれほど居られるか存じませんが、自動車研究会が発足したのは、



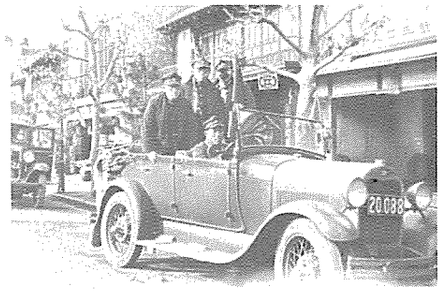
ビック陸軍払下車400円位　　1929年型フォード300円位

堀の内練習場にて　昭和10年３月

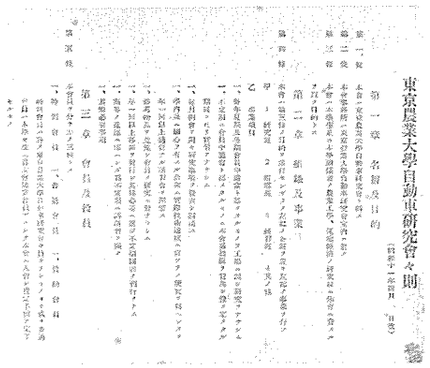
年/月/日	記事
9 11/16	自動車研究会発足
	都内各大学対抗戦開催
11 1/	箱根駅伝伴走
11 7/	東北一周旅行
14 7/20～8/2	名古屋自動車整備講習会
16 4/	報国農友会鍛錬局自動車部と名称変更
26 11/15	第2回東京ー大阪ノンストップレース　主催・関東学連
27 5/2	全日本学生自動車連盟結成
6/8	全日運転競技会　於・鮫州
11/15～11/16	全日運転競技会　於・鮫州
28 6/7	全日運転競技会　於・鮫州

確か15名程のように記憶しております。ＯＢ名簿を見ますと、顔と名前が別人のような気がします。

最初部員が拾圓宛出し合い、補助と寄付金を合わせて三百圓のフォード（中古）を購入したように思います。設定は昭和９年、常磐松の小さな部室（六畳程）で始まった様に思います。東北旅行は昭和11年の夏休みに６名で太平洋側をを北上し、青森の十和田湖まで２泊の行程でした。湖で一週間休み（テント）湖が国立公園に指定されたお祝いを見て、日本海側を新潟を経て帰京しました。オンボロ車で日に７～８回のパンクはざらで、タイヤにタオルを巻いて走ったものです。



昭和11年１月　箱根駅伝の伴走
助手席は応援団長



東京農業大學自動車研究會々則

昭和11年自動車研究会々則（一部）

部の活動としては箱根駅伝の付き添いや、陸軍への奉仕など、当時軍隊活動の盛んな時代で、配属将校も４名居り顧問的存在でした。軍よりの払い下げでビュイックを２台購入しましたが、ガソリンをくうので飾りでした。新入生の歓迎ドライブは、日光と三浦岬でした。

練習は用賀の小さな練習場を借りて行

29 5/26～5/27	第5回全日運転競技会
11/23	第6回全日運転競技会
30 5/	第1回モーターバイクレース　東京ー浜松往復
31 4/22	第9回全日運転競技大会　・予選　於・鮫州
32 1/22～1/23	第5回全日大阪ー東京　耐久レース
32 1/25	第10回全日運転競技大会
4/14	第11回全日運転競技大会　・予選
5/3	第11回全日運転競技大会　・決勝
5/12	第3回全日ウィリスジープ　燃料経済競争　東京ー大阪

ない実技試験の為品川の試験場にもよく行きました。当時の外食は朝拾銭、昼拾五銭、夜拾五銭が普通で、下宿は六畳で二食付き十五圓程でした。

自動車部も50周年を迎え今後さらに発展する事をお祈り致します。

昭和11年当時のクラブ活動

昭和11年７月

東北一周旅行

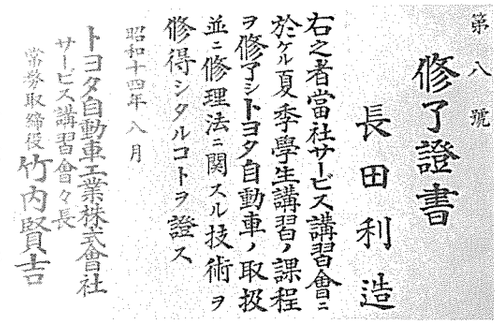
最上川畔にて

32 6/2	第1回女子学生自動車操縦競技大会	
10/27	第12回全日運転競技大会	・予選
11/21~11/22	第6回全日耐久レース	
11/24	第12回全日運転競技大会	
33 3/9	全日門司―東京スクーター耐久レース	○開通当日の関門トンネル通過
4/13	第13回全日運転競技大会	於・鮫州
5/25~5/26	全日本燃料経済競争競争	名古屋―東京
6/1	第2回女子学生自動車運転競技大会・予選	
11/20~11/21	第7回全日耐久レース	

―昭和14年～16年―

戦争へ

昭和16年卒　長田　利造



第八號

修了證書

長田利造

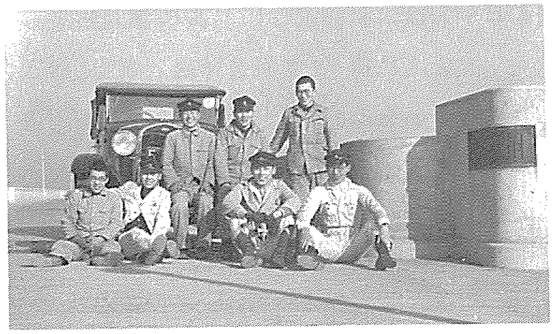
右之者當社サービス講習會ニ於ケル夏季學生講習ノ課程ヲ修了シトヨタ自動車ノ取扱並ニ修理法ニ關スル技術ヲ修得シタルコトヲ證ス

昭和十四年八月

トヨタ自動車工業株式會社
サービス講習會々長
常務取締役　竹内賢吉

昭和１４年７月２０日から８月２日まで、名古屋市熱田区のトヨタ自動車にて、各大学自動車部から２名程度が参加し、サービス講習会が開催され、我が農大自動車部より長田・増田が参加した。

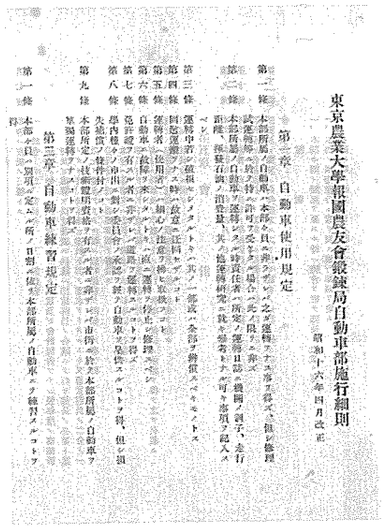
33 11/23	第14回全日運転競技大会	
34 4/10~4/19	第2回全日スクーターラリー	鹿児島―東京絵画館前
5/3	第15回全日運転競技大会	・関東予選
	第4回全関運転競技大会	
5/24	第15回全日運転競技大会	於・府中
6/7	女子学連運転競技大会	
6/14	第5回ジープ燃料経済競争	
10/25	第5回全関運転競技大会	
11/14	第1回八大学対抗女子エコノミーラン	東京―静岡
11/22	第16回全日運転競技大会	於・大阪



昭和15年２月　岩浪部員送別ドライブ

農大一横浜一鎌倉一江ノ島一大磯一農大

昭和16年４月　農大自動車研究会は、報国農友会鍛錬局自動車部と名称が変わる。



東京農業大學報國農友會鍛錬局自動車部施行細則

昭和十六年四月改正

第一章　自動車使用規定

第一條　本部所屬ノ自動車ハ本部員ニ對シテノミ之ヲ運轉スルモノトス

第二條　本部所屬ノ自動車ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三條　運轉申請ニ當リテハ所定ノ用紙ニ必要ナル事項ヲ記入シ

第四條　運轉者ハ後進ニ對シ親切ニ教授スベシ

第五條　自動車ニ故障ヲ來シタル時ハ直ニ運轉ヲ中止シ

第六條　自動車ニ故障ヲ來シタル時ハ直ニ運轉ヲ中止シ

第七條　運轉者ハ故意ニ自動車ヲ破損シタル時ハ

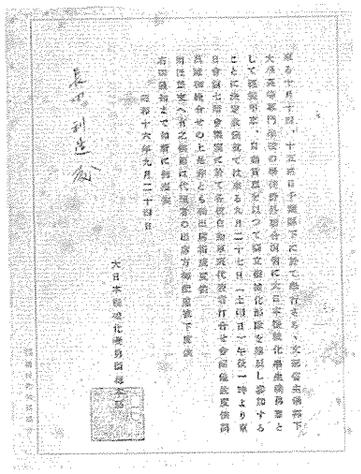
第八條　學內種々ノ申出ハ鍛錬局委員會ノ決議ヲ經テ

第九條　本部所屬ノ自動車ハ學內ノ用ニ使用スルコトヲ得ズ

第三章　自動車練習規定

第一條　本部員ニ對シ所定ノ學科及實地ノ練習ヲ

昭和16年10月東京府下の各大学、高校の最高学年の連合演習が千葉県習志野演習場で行なわれた。我が農大自動車部から12名が機甲隊の一部として参加した。日産キャブオーバー車は機械化協会より借用した。ガソリン欠乏で車を押したり、農家のあたたかい「ふかしいも」を頂いたり、暁の遭遇戦や学生戦車部隊と協力し徹夜で行進したり忙しい２日間だった。

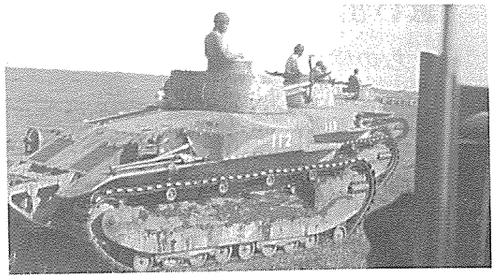


長官　利定　印

昭和十六年九月二十四日

大日本機械化機動部隊

34 12/18～12/19	大阪―東京耐久レース
35 3/27	第6回全関運転競技大会
4/24	第17回全日運転競技大会
5/22～5/29	第3回全日スクーターラリー
	長崎―東京
9/4	ウィリスジープ燃料経済競争
	東京―名古屋
10/23	第7回全日運転競技大会
	於・府中
11/12～11/13	第2回女子学生　東京―浜名
	湖往復レース
11/29～11/30	第9回全日　大阪―東京
	耐久競技大会
12/4	第8回全日運転競技大会
36 1/15	**第1回農大新春ラリー開催**
4/8～4/9	日本一周ラリー・予選



昭和16年11月　農大鍛錬局の鍛錬日の行事として自動車部は武装行軍訓練行進を行った。出発に当り関根部長の訓話を受ける。

昭和16年11月

繰り上げ卒業、自動車部送別会。

36 6/11	女子フィギァ　レース
6/16～7/16	第1回日本一周ラリー
	於・府中
11/11～11/12	全日女子ラリー
11/26	全日運転競技大会
	於・中部自動車学校
12/16～12/17	全関ナイトラリー選手権大会
37 4/	全日日本一周ラリー・予選
	（第11回全関ラリー選手権）
8/1～8/26	第9回全日日本一周レース
10/14	全関運転競技大会
	於・府中
10/21	第5回全関女子運転競技大会
	於・府中
10/27	**第1回早稲田ラリー**
	2位

思い出

昭和16年卒　増田 千秋

私たちの学生時代は現在とは対象的な軍国主義一辺倒の時代で、学生も在学中から軍隊に入らなければならなかった。そんな中で私の所属したクラブは自動車部、射撃部、グライダー部の三つで皆軍国主義につながって、なかなか派手に活動していた。

自動車部の思い出としては、夏期遠征がある。車が唯の一台なのに参加希望者が多くて委員長がひそかに決めたメンバーが当日こっそりと荷物をまとめ、他を刺激せぬよう逃げるがごとく学校をあとにし明治神宮に集合した。ここで交通安全を祈願してから出発した。伊豆半島一周遠征でくたびれたが楽しかった。

私と長田君は昭和16年12月27日卒業である。25日ごろ２人揃って用賀農場車庫にフォード27年型の部車をきれいに水洗いし格納して鍵をかけ頭を下げて農大をしりぞいた。それからの経緯はしらない、長田君はスマトラ私はタイ、ビルマに出征をしたからである。激戦の野に苦闘を重ね幸いにも生き残って帰郷した私は昭和25年夏農大を訪問した。

農大も車庫も昔のままだ。この辺は空襲がなかったらしい。その頃農大では新生自動車部が出来ていて活発な活動を始めていた。その後農大自動車部より沢山の立派なＯＢが育ち、社会で活躍をして居られるのを知って無上の慶びにたえない所である。

37 11/11～11/13	第2回全日女子ラリー
11/25	全日運転競技大会 於・名古屋
38 4/12～4/14	全日ラリー・予選（全関東学生自動車選手権ラリー）
5/12	全関女子団体運転競技大会
11/8～11/10	第3回全日女子ラリー
11/23～11/24	全日運転競技大会
39 4/5～4/8	女子学連合宿
4/26	第7回全関女子運転競技大会
5/31	全関学生運転競技大会
9/25～10/31	東京オリンピック役員・選手送迎車運転を担当

── 終戦～昭和 29 年 ──

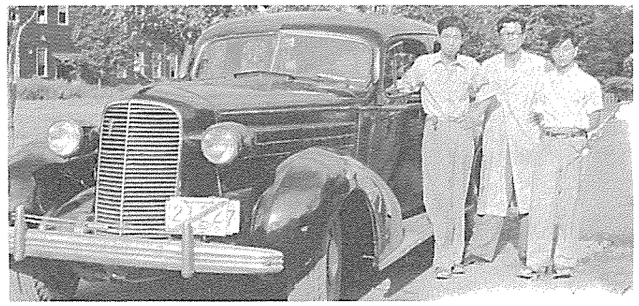
自動車部再建

昭和31年卒　石見　良勝

自動車部は戦後昭和２９年前後、私達が再建したように記憶いたしております。戦後初代部長は近藤典生先生で幹事は私と醸造科の永井君でした。再建時の部員は３０数人程度で、自動車は近藤先生の紹介で、外国の方より寄付いただいたキャデラック１９３６年型１２気筒只１台でした。当時部員の免許証所持者は私のみで、佐藤寛治学長の近県への出張時私が運転手としてお伴をしたり、後輩の運転指導等に明け暮れする日々でありました。

自動車はオンボロで１２気筒のうち６気筒が作動せず、いわゆる片肺で学長送迎時、都内の交差点でエンストを起こし学長に後押しをさせてしまったのを思い出します。

修理は自分たちで取り組み、部品の調達に苦労しながら自動車を動かした事を懐かしく思い出します。



外国の方より寄付いただいた、キャデラック'1936年

39 11/22～11/23	全日運転競技大会
40 3/27	理科大ラリー
4/7～4/8	全関ラリー選手権大会
5/2	全関運転競技大会
7/14～7/18	全日ラリー選手権大会
8/19～8/20	第1回全日整備大会
10/17	全関運転競技大会
10/30	女子エコラン大会
10/30～10/31	亜細亜大ラリー
11/6	第3回早稲田ラリー
11/21	全日運転競技大会 於・府中

—昭和30年～34年—

思い出の部室

昭和37年卒　揖斐　昭子

春ともなりますと育種学研究室の敷地に居候しております部室にも、新入部員が大勢加わって、ただでさえ小さな部室がはちきれんばかりに膨れ上がり、それこそ大変、笑う毎屋根がフワフワ、風が吹けば壁がグワァーとふくれたり、戸口を閉めてしまうと内の様子がわからなくなり、部室に用事がある人が“トン、トン”とたたけば「入っています」と答えなければならない程、ガッチリした扉がついているのです。その扉も春風によって開け放たれると、ヨレヨレのうすぎたない白衣を着た育種の研究生が「やぶれタオルでほっかむり・・・・かつぐは農大生」とうたわれたあの桶に、キンギョ草に似たストックの花々を入れて持って来てくれました。

育種研がある為に春にはパンジー、バラ、ストック等花には困らず、ただでながめさせてもらったのですが桶が桶だけに農大生らしいなと思ったものでした。小さくてゴミゴミしている部室の内に、これらの花は場所を間違えたかと錯覚される程美しいものでした。バンカラな内にも心の美しさを持っている農大自動車部ならではの精神ではないでしょうか。

池渕監督を囲んで

夏休みには、我々有志で部車を借用して海水浴。この海水浴には古チューブが付き物なのです。カナヅチ部員は、この古チューブの世話になりアップ、アップもせずに一夏過ごせるのです。

中秋の名月には用賀農場の一本松（２～３本あったかしら）に登ります。秩父連山がはるか遠くにかすんであかね色、とっぷり陽がくれると名月が実に美しく美しく空に輝くのです。どこの部室よりも自然にめぐまれこんなに趣のある部室が他にあるでしょうか。用賀の大通りを歩いて来てあまり月がきれいなので道路にねて空をあおぎ月を眺めた部員もあったのです。さつま芋等を、ちょくちょく失敬して来て食べたのも秋ならではの事。

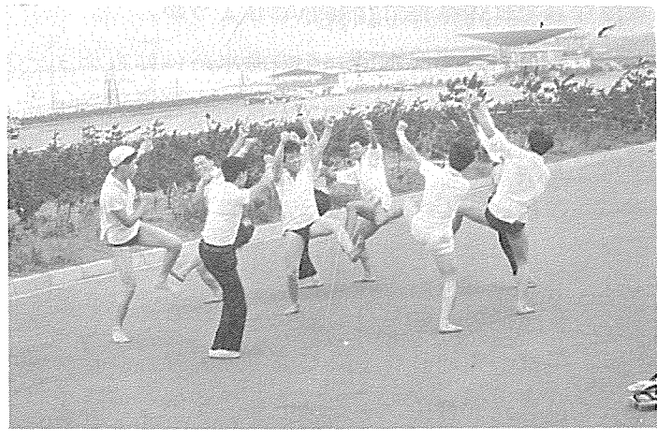
冬が来たな！と感じる頃には恒例の部室の壁張りがあります。新聞紙を寄付してもらって小麦粉を何袋も買い込んで来て、誰が使っていたのか？持主のないきたない洗面器や、正常な形をしていないお鍋で糊をいっぱい作り、部員総動員で広くない（決してお世辞にも）部室の壁をベタベタとはるのです。

コンロが一つあって火を何とか起こし糊用の洗面器をかけたのですが、ちっとも煮えてこず、とうとう寮の炊事場のガスを拝借する

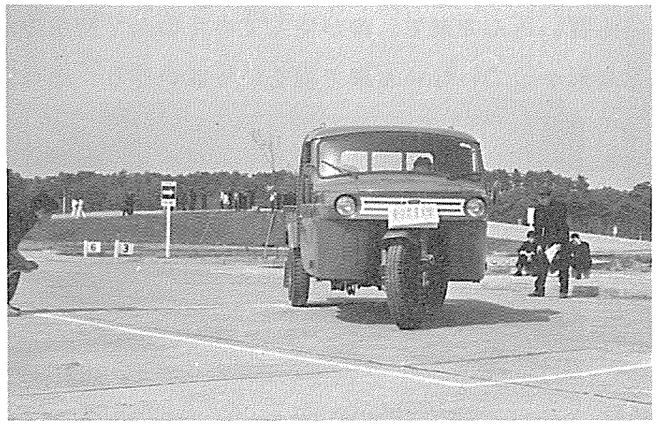
昭和36年５月　新入生歓迎ドライブ　相模湖にて

41 4/29	全関運転競技大会
5/21～5/22	全関ラリー選手権大会
8/13～8/14	第２回全日整備大会
8/17	全日女子エコノミックラリー大会
10/23	全関運転競技大会
11/2～11/3	亜細亜大ラリー
11/23	全日運転競技大会
42 4/29	全関運転競技大会　於・府中
5/20	全関学生ラリー選手権
5/21	東大ラリー
8/17～8/18	全日整備大会　於・名古屋

42 10/28～10/29	第４回早稲田ラリー
11/19	全日運転競技大会　於・府中
43 4/28	全関運転競技大会　男子三種戦優勝
5/18	全関学生ラリー選手権　優勝・
5/19	全関サーキットラリー　於・Ｆｉｓｃｏ
8/9～8/10	全日整備大会　於・名古屋
10/20	全関女子ラリー選手権
11/23	全日運転競技大会　於・大阪
12/	第一回全関杯　同点二位
44 4/27	全関運転競技大会　於・府中
5/17～5/18	全関学生ラリー選手権



青山ほとりはいつでもどこでも……



三輪車のフィギィア……

事になります。佐藤さんとこっそり糊を作るため寮に入って行きました。寮生の私までがこそこそ、一回目は見つからなかったのですが二回目に見つかってしまい寮母さんに大目玉。しかし部室の事を思い寮母さんにすがって、何んとか糊を無事に作り上げました。

新聞紙のインクが黒く手につくし、糊は洋服につくし・・・・壁はりの内職は卒業できました。

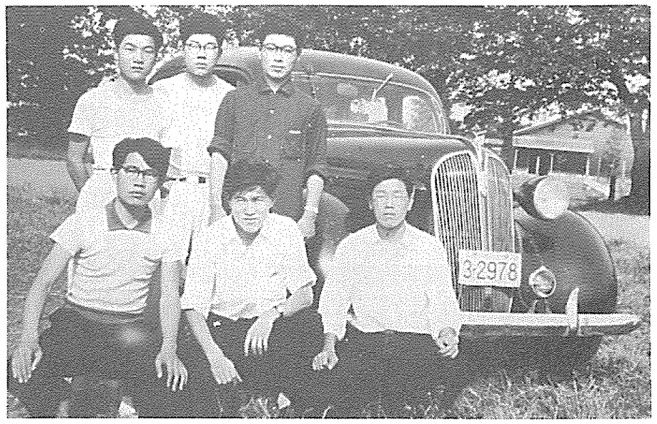
もっと寒くなるとこんどはルンペンストーブのご用となります。何でもジャカ、ジャカ

44 6/1	第2回全関サーキットラリー	於・Fisco	
8/7～8/9	全日整備大会	於・名古屋	男子三位入賞
11/23	全日運転競技大会	於・福岡	
45 4/26	全関運転競技大会	於・府中	
5/16～5/17	全関学生ラリー選手権		
6/13	全関学生サーキットラリー	於・Fisco	
8/13～8/14	全日整備大会	於・名古屋	女子三位入賞
11/22	全日運転競技大会		
46 5/16	全関運転競技大会	於・府中	
6/12	全関サーキットラリー	於・Fisco	
8/	全日整備大会	於・名古屋	男子三位入賞

燃してとても暖かくなります。私が二年の時ルンペンストーブは廃車？になりこんどは西原さんが何日もかけて二つに切断したドラムカンがストーブに変わりました。よく溝口さんがお餅を焼いていました。

ドラムカンストーブはとても暖かく、なかなかそばを離れにくく皆んな活動をしないので平松さん、溝口さんがどなっておられたのを思い出します。

ウイリスオーバーランドと



プリムス37と

6/12	サーキットラリー	於・Fisco	
48 5/	全関運転競技大会	於・府中	男子三種戦優勝
11/29	全日運転競技大会		
10/22	全関女子新人戦ラリー		
8/10～8/11	全日整備大会	於・名古屋	女子三位入賞
8/1	交通安全キャンペーン	パレード 於・名古屋	
7/1～7/2	全関ラリー選手権	於・埼玉、栃木、群馬	
6/10	全関耐久走行選手権	於・Fisco	
5/21	全関運転競技大会	於・府中	
47 10/30～10/31	全関学生ラリー選手権大会		

—昭和35年～39年—

活動の基礎

昭和39年卒　片岡　二郎

昭和36年～39年は戦後の自動車部の活動の基礎を創った時期であった。36年旧農大合宿所で第１回合宿を行ったが、合宿とは名ばかりでグランドわきの荒地にシャベルとブルドーザーでコース作り、車の練習はついに出来なかった。36年に第１回新春ラリー参加７台、38年第１回遠征、部車の自主車検合格等々。車も高くて買えず部車は全て外車で整備も英文の為辞書片手であった。

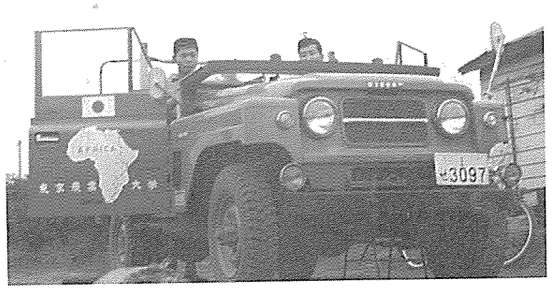
ラリーも全日本一周ラリー、スクーターラリー、エコラン等多く、ラリーのスポーツ化で２人制ラリーも開始された。ラリーの問題も難しく必ずタイガー計算機と百科辞典を使用した。

35年11月３日　整備完了記念　日曜・祭日・正月は２年生以上は全員部に出ることとなっていた。

昭和38年卒業記念

48 6/17	武連フィギア本戦　於・府中
11/18	全日運転競技大会　於・府中
5/26	全関運転競技大会　於・府中
6/29～6/30	全関耐久走行大会　於・Fisco
8/8～8/9	全日整備大会　於・中部自動車整備学校
10/19	全関ダートクロス大会　於・八王子サマーランド
10/25	武連本戦ラリー
11/8～11/9	交通遺児育英募金街頭活動
11/16	国士館もみじラリー
50 3/15～3/17	学連リーダースキャンプ

35年入部者は40人いたが、２年目でこれしか残らなかった。クラウンは１ヶ月1､000円のレンタカー。



63年アフリカ縦断用のニッサンＶ－30

トヨタＤＡは両国の材木店から入手、ワックスの効いた極上品だった。

11/14	全日連転競技大会　於・府中
10/10	全関ダートクロス選手権　於・八王子サマーランド
51 8/10～8/11	全日整備大会　於・名古屋
6/27	全関ジムカーナ選手権　於・Fisco
6/19	全関耐久走行選手権大会　於・Fisco
5/30	ダートクロス講習会　於・八王子サマーランド
5/23	新人戦ラリー
5/16	全関運転競技大会　於・府中
4/25	交通遺児育英募金街頭活動
50 3/18～3/19	武連リーダースキャンプ

―昭和40年～44年―

黄金時代

昭和45年卒　三箇　　滋

昭和40年から45年は、第一次の自動車部黄金時代である。部員数、有車検車の数共一番多かったであろう。農大の体育会系クラブで、その対外成績の最良のクラブに与えられる農友会賞を授与されたのもこのころであった。

社会的にも評価された「献血」や「チャリティープレトキャンペーン」。ラリー、フィギア、整備、の各競技にも好成績をおさめ、東京西部地区の各大学で構成された武蔵野学生自動車連盟の当番校となる等、内外で大いに活躍した。

昭和42年５月新入生歓迎ドライブ城ケ島

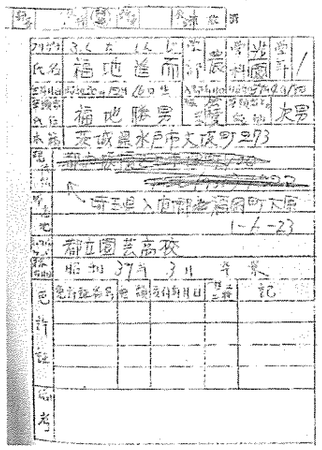
52 5/8	武連新人戦ラリー
5/15	武連フィギア
5/22	全関連転競技大会　於・府中
6/5	電通大ラリー
6/11	全関サーキットラリー　於・Fisco
6/18	武連ダートトライアル
6/19	全関ジムカーナ大会　於・Fisco
6/25～6/26	農工大ラリー
8/9～8/10	全日整備大会　於・八王子日本整備学校
9/30	全関ダートクロス選手権　於・八王子サマーランド　男子優勝

昭和44年３月卒業記念

昭和　年度 TAU A C No.
部員証
東京農業大学自動車部
農学部 造園科 之 年
氏名 佐々木信雄

部員証明書 No.
下記の者は当部の部員であることを証明する。
氏名 佐々木信雄
生年月日 昭和22年4月21日生
本籍 福島県郡山市柳町71-4
現住所 世田谷区砧町206
昭和　年　月　日 発行
発行者 東京都世田谷区玉川1丁目1番17号
所在地 育種学 TEL
部名 東京農業大学体育会自動車部
部長 近藤典生

部員証



氏名 福地進而　昭和22年4月21日生
福地勝男　父
茨城県水戸市大成町227
都立園芸高校
昭和37年3月卒業
発行証番号　発行年月日　記

入部願

52 10/11	交通遺児育英募金キャンペーン　於・新宿
10/16	武連新人戦フィギア　於・町田　優勝
11/13	全日運転競技大会　於・門真試験場
53 5/14	全関ダートクロス選手権　於・多摩サーキット
5/21	武連フィギア　於・町田
6/4	全関連転競技大会　於・府中
6/24～6/25	農工大ラリー
6/25	全関ジムカーナ大会
8/3～8/4	全日整備大会　於・中部日本整備学校

―昭和45年～47年―

部室移転　　**昭和48年卒　叶野　　力**

創立50周年おめでとうございます。私が自動車部に入部したのは、44年春のことでしたが今回縁あって、実行委員の一人として参加し、在学当時知りえなかった創部当時の写真、文集、お話しをうかがい、改めて歴史の重みを感じています。さて私たちは第一次オイルショック、高度成長時代から低成長への過渡期の４年間を部員として活動しました。色々な矛盾や歪みが指摘されながらも最後の良き時代を突っ走ってしまった様に思います。

役員時代は、全日整備競技大会男女三位、全日本フィギアの小型乗用車で上平一郎君が優勝、ラリーでは理科大ラリー、武蔵工大ラリー等、５～６回の優勝をし、学連の中でも優秀な成績をあげたと記憶しています。又、武蔵野学生自動車連合の当番校であり、武田邦典委員長のもと、対外活動も活発化し、勝って当然のプレッシャーを受けながらも、優秀な成績をあげることが出来たと思っています。しかし今にして思えば、学生時代の良い事は結果でなくプロセスであったことです。我々同期は８人と、当時にしてみれば信じられない少人数でクラブ運営を余儀無くされましたが、団結力は素晴らしいものがありました。

古き良き時代の象徴であった育種学研究所脇の部室から、現在の部室に移動がありました。柱１～２本をロープで引っぱると我々の今まで活動していた部室がたった１時間程で倒れてしまい、集まった皆の大歓声の中にも一抹のさみしさがありました。これに先だち行なわれた新部室づくりの作業は大変でした。ピットを堀り、Ｈ鋼をとりつけ、作業台を造り、毎日、活動が終ってから徹夜で、授業は寝に行くものときめてました。先輩の色々な意見を取り入れながら、毎晩が部室近くの私の下宿での合宿生活でした。同じ部屋で寝ていると各自寝言で「押忍」「デボネア直りました」「もうかんべんして下さい」等言って、お前はきのうこんな寝言を言ったぞと翌朝の話題でした。結果はどうでも「クラブを何とか運営しなければならない」との同じ目的で、一時期を過ごせた事が我々８人の心のささえであり、10年以上経過した今でも「あの時より苦しい事はなかった」と思って仕事にがんばれるのだなと思います。「楽しかった」「昔は良かった」ではなく、あの時の経験を、今後の人生に活用する事で自動車部の存在があるのだと50周年を期に感じています。

53 10/8	全関ダートクロス選手権　優勝
10/21	法政大オレンジラリー
10/27～10/29	交通遺児育英募金
11/5	新人戦フィギア　優勝
11/12	武連ダートトライアル　優勝
11/19	全日連転競技大会　於・福岡
11/25	全関ダートクロス選手権　三位入賞　於・所沢モーターグランド
54 3/14～3/16	リーダースキャンプ　於・富士急ハイランド
4/28～4/30	交通遺児育英募金
5/13	全国ダートクロス選手権　優勝　於・所沢モーターグランド

伝統ある部室の解体寸前―トロフィー等をならべ、学歌を歌い別れをつげる ―この後１時間程で解体を完了した。

54 5/27	全関運転競技大会　於・府中
6/3	電通大ラリー
6/9	武連本戦ラリー
6/24	全関ジムカーナ選手権　於・トヨタ学園
10/10	武連ダートトライアルタ学園
10/20	法政大オレンジラリー
10/27～10/30	交通遺児育英募金
11/4	武連フィギア　優勝
11/11	全日連転競技大会　於・府中
11/24	武連ラリー

—昭和48年～50年—

チームワーク　　**昭和49年卒　北山　友美**

早いもので、自動車部を卒業してもう10年以上の年月が経過いたしました。今、私は創立50周年を迎えるに至った伝統ある自動車部でその歴史の１コマを担うことができたことに新たな感動を覚えております。そして、ややもすると惰性的になりがちな日常生活にあって、当時純粋な気持ちで車と格闘し、怒った事、笑った事、泣いた事等が、仲間達の顔とともにさわやかな思い出としてよみがえってきます。

昭和48年は、車社会において、ちょうど転機の年でありました。「排気ガス規制」「オイルショック」等、また学連において、ラリーに変わるべく、ジムカーナあるいはダートトライアル等、新しい競技を取り入れる検討が始められたのもこの時代あたりからでした。このように社会的にも経済的にも車に対する風あたりが強まりを見せる中で、第11回夏期遠征（四国一周）が実施されました。これはこのような状勢下にあって社会的に自動車部の存在を認めさす絶好のチャンスでありました。すなわち「小さな花から大きな幸せ」をキャッチフレーズに各地の幼稚園を訪れ、子供達と一緒に花を植えるといった行動を「メダマ」とし、併せて地元青年団との交流会を実施したわけです。それまでのどちらかといえば、クラブ組織の強化に主眼をおいた遠征にプラスアルファーとして、社会的な場での自動車部のあり方をアピールする要素を加えたという意味において、それなりの成果があったものと確信しております。

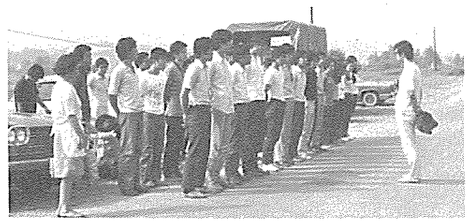
55 3/17～3/19	リーダースキャンプ　於・富士急ハイランド
4/27～4/28	交通遺児育英募金
4/29	全関ダートクロス選手権　於・オートランド千葉
5/25	全関連転競技大会　於・府中
6/22	全関ジムカーナ選手権　於・Fisco
8/5～8/6	全日整備大会　於・中部日本整備学校
10/5	全関ダートクロス選手権　男子優勝
10/26	武連本戦ラリー　優勝
11/16	全関大学対抗ジムカーナ　選手権　於・Fisco

また、この年は競技面において、全関フィギア男子三種戦の部個人総合優勝、団体戦中貨の部優勝をはじめとし、各部門でかなり上位の成績を得ることができました。練習の積み重ねもさることながら、練りに練った作戦、また作戦を実践するに当ってのチームワーク等、全て歯車がかみ合っての勝利でした。

しかし、良い事ばかりでなく、ちょっとした気のゆるみから一枚の歯が破損するという事故が生じたのもこの年でした。結果として、全日本フィギア出場辞退、新春ラリー中止という最悪の事態を引き起こしてしまい、大変に残念に思っております。伝統ある自動車部にあって、このような不名誉な事実を残してしまったことを、あらためて深くお詫び申し上げます。そして、これは破損した歯だけが悪いのではなく、潤滑油たるオイルの役割、すなわち、チームワークの乱れが原因であるとの教訓を後世の諸君に申し伝えたいと思います。

波乱万丈の48年でしたが、今となってはどの出来事をとってもよい経験であり、良い思い出として残っています。現役部員の諸君には、二度とない限られた今の時間を精一杯過されますよう切望いたします。

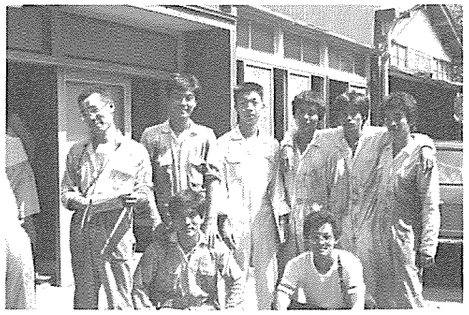
最後になりましたが、農大自動車部ならびにＯＢ諸氏のますますの御発展をお祈り申し上げます。



昭和46年７月　能登半島遠征出発

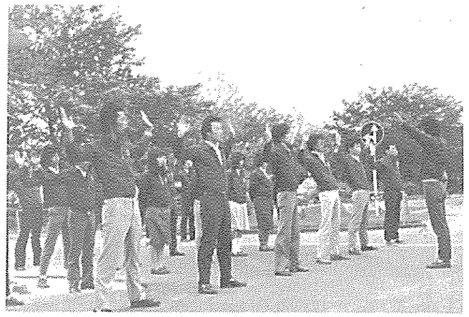
55 11/23	全日運転競技大会　於・門真試験場
56 3/23～3/18	リーダースキャンプ　於・富士急ハイランド
4/19	交通遺児育英募金
4/20～4/29	全関ダートクロス選手権　於・所沢モーターグランド
5/24	全関ジムカーナ選手権大会　於・Fisco
8/3～8/4	全日整備大会　於・日本自動車整備専門学校
10/18	全関ダートクロス選手権大会　於・所沢モーターグランド
11/22	全日運転競技大会　於・府中
57 3/16	リーダースキャンプ　於・富士急ハイランド

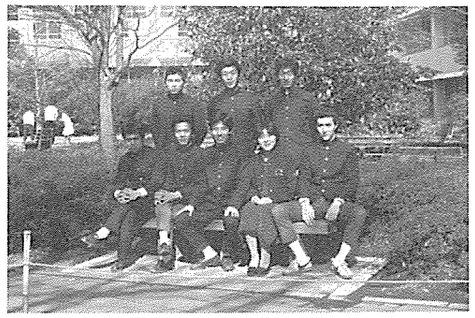
昭和51年～55年



昭和53年９月　夏期合宿　於：千葉矢指ヶ浦温泉　疲れた表情、合宿のキビシさが良くわかる！

昭和51年５月　全関東学生自動車運転競技大会　於：府中自動車試験場
応援合戦　　農大も負けじと応援歌

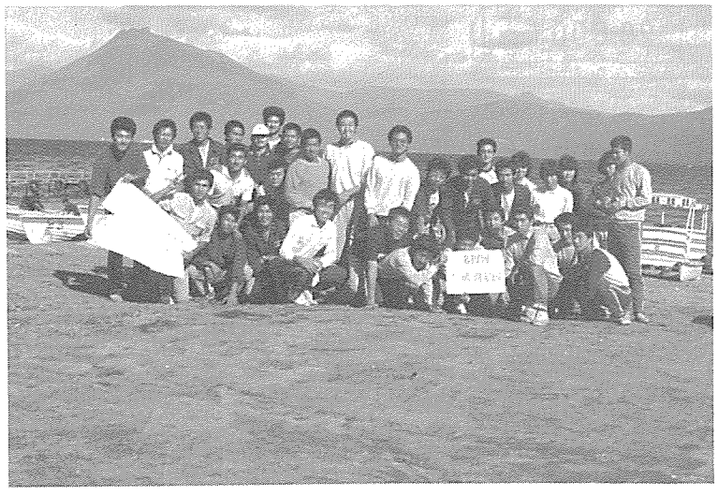




昭和53年３月　卒業　長いようで短かかった４年間！　思い出がいっぱい

昭和53年８月　夏期遠征　　１週間程
かかりＤＡ70も関門橋を渡り九州入り

57	
4/23～4/24	交通遺児育英募金
4/29	全関ダートクロス選手権大会
6/19	全関ジムカーナ選手権大会　於・Ｆｉｓｃｏ
8/3～8/4	全日整備大会　於・中部日本整備学校
10/19	全関ダートクロス選手権大会　於・所沢モーターグランド
11/14	全日運転競技大会　於・熊本
11/28	全関練習ラリー　於・埼玉県一円
58	
3/12～3/14	リーダースキャンプ
4/29	全関学生ダートクロス選手権大会
5/29	全関運転競技大会　於・府中



昭和54年　夏期遠征
北海道　支笏湖

昭和55年　夏期遠征
和歌山白浜三段壁

59	
8/2～8/3	全日整備大会　於・八王子トヨタ学園
10/30	全関ダートクロス選手権大会　於・オートランド千葉
11/3	創部50周年記念全国一周リレー号出発

アフリカ縦断 20.000㎞

ジャンボ・アパーナ　　昭和36年卒　山縣　高一

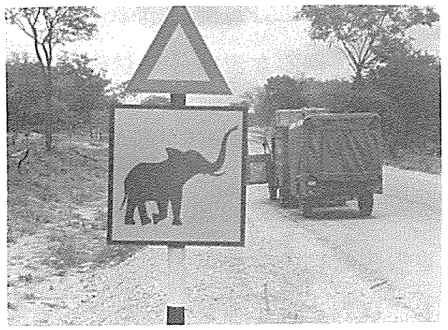
東京農業大学アフリカ縦断動植物総合調査は本学教授農学博士、近藤典生育種学研究所々長が企画され、私は隊員11名の１人としてこれに参加した。昭和36年６月30日（土）東京駅出発、初秋の涼風に送られ10月４日（水）神戸港をＯＳＫメキシコ丸で隊の車三台と共に出航した。10月９日（月）ホンコン。10月15日（日）シンガポールに寄港、ゆれる甲板に馴れた身体は大地の上を歩く事が出来なかった。

10月27日（金）目覚めると海の色が違う。さあ夢に見た大陸！アフリカだ。ロレンソマルケルに入港、見事な赤銅色の肌、笑うと真珠が並んだ様な歯が見える人達にお目にかかり、アフリカ大陸に来たという実感を得た。

11月11日（土）南ア、ケープタウン出発、セドリックバンＶ30は近藤隊長、２号車ニッサンパトロールＧ60Ｈは守屋、アルバレス両隊員、３号車ニッサンパトロールＧ60Ｈは山縣が、各々エジプトのカイロ迄運転を担当、３号車は現地調達の約２屯積のトレーラー（隊装備品、食料、隊員の荷物等を満載）をけん引した。３号車以外は渉外や親善訪問などで600～700㎞走行し3,000㎞を越えた。人も車も馴らし運転完了だ。

血潮にも似た赤い表土の下の黒い岩から、天女の涙の様なダイヤを産するキンバリーの町や、眩い光を放つ黄金の鉱山があるヨハネスブルグ市街を通過し、桜によく似たジャカランダが紫の花吹雪で歓迎するプレトリア市に11月15日（水）に到着。ケープから約1.700㎞

11月25日（土）寒さと人の話声で目覚め、コーヒーを飲んで出発、約１時間程で目的地クルーガーナショナルパークに到着した。日本の四国ほどもある大自然公園だ。　入口でこと細かな注意事項を受け、ＮＴＶ記録撮影班と園内へ、６時半の門限間際まで見学を続けた。安全な居住地区に居ても深夜、動物の奇声に何度も起された。



南ローデシヤ、象に注意の標識

11月30日　南ローデシア入国手続きの後通関手続きの為、積荷全部を降し又積込み作業をした。フロントガラスや屋根上の荷物に、昆虫類が音をたてて衝突してる。と、隣にいる水野隊員が変な悲鳴をあげた。何事ぞ！　短パンで足を大きく拡げ直接涼風が股間に入る姿勢をとっていた。ベンチレーターから体長４～５㎝の昆虫が飛込み直撃したのだ。

象に注意。牛の横断路などの珍らしい標識が出てきた。この辺から国道はレール道だ。乗用車から大型トラックのトレッドに見合う部分だけ多少盛上げ舗装され、丁度軌道の様に見える。

12月２日（土）南ローデシア北端の町ヴィクトリアフォールに到着。我々より先に来ていた早大隊の田辺さんの訃報を聞いた。

彼等は目的半途でナイロビにて現地解散されたとの事。

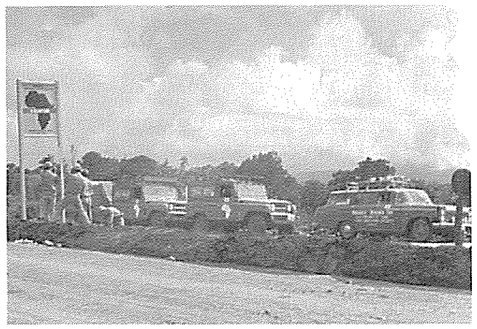
タンガニイカ南部、バオバブ

12月７日（木）動乱のコンゴ・カタンガ州近くに来た。南アに逃れる親子５人連に会った、４ｔ車に家財を満載して出たが、もう大半は燃料代と食費に消え心細い限りと話した。通貨フランはちり紙同然との事だ。この先燃料事情の悪化を考えて、満タンクの他、携行缶と石油缶一本を用意した。

12月９日（土）独立直前のタンガニイカ入国、通関手続きは簡単に終った。ケープから国境まで約5.400㎞、ここで時刻変更をした、ローデシア側の13時はタンガニイカ側は14時だ。夕食後入浴、下着からＹシャツ迄洗濯、石鹸４～５個で湯舟が映画で見る様に泡だらけになった。

12月12日（火）ドドマを午前11時半に出発、From CAPE TOWN to CAIRO車に書かれた英文字看板の丁度中間地アルーシャに向った。3号車は夕方6時半キボ・ホテルに到着した。

ナイロビ総領事館　クリスマスパーテーに招待された　36年12月



赤道を通過　37年1月2日

ウガンダ北部の洪水　通行規制

12月14日（木）赤道直下で白い綿帽子をかぶった標高5969mのキリマンジャロの山麓にあるキボ・ホテルで人も車も休養した。ケープからキボまで隊長車は9.200㎞、2号車は8.200㎞、3号車6.400㎞を走破した。

12月15日（金）晴のち曇、5人の隊員が他のパーティーと共にキリマンジャロ登山に出発した。下山する迄の間、我々残留者は300㎞西方にあるンゴロンゴロナショナルパークを見学に行った。12月19日（火）夕方登山隊全員頭に登頂記念の花冠をつけ、意気揚々と帰還した。

12月21日（木）ケニアに入国。国境は無いにも等しい。首都ナイロビに到着約400㎞の気楽なドライブであった。総領事館のクリスマス・ディナーパーティーに招待された。新聞をむさぼり読み、久し振りの和食に舌鼓を打ち、日本酒を飲み11時過ぎ帰宿した。

12月29日（金）昨夜来の雨降り止まず。4時起床、モンバサに向け出発した。ナイロビ東方26～27㎞で道路洪水のため道路が通行止だ。1度帰り別ルートで正午再出発。サボ・ロイヤルパークを通過、日が暮れヘッドライトに浮び出る動物たち、アッ前方に赤茶色の岩が　アフリカ象であった。

1962年1月1日（月）正午、在ナイロビの日本総領事館に元旦の挨拶、心づくしのおせち料理を載く。3時過ぎナイロビの西部にある大地溝帯を通りウガンダへ向った。

1月2日（火）午後3時頃赤道を通過した。洪水で通行規制がされていて、近藤隊長車は乗用車専用迂回路へ、2号車と3号車は直進し貨物車道路に別れた。トレーラーを2台も連結したフルトレーラーや大小各種のトラックが多数停車していた。ドライバーがあちこちに集りワイワイガヤガヤ、前方を見ればまるで湖の中に道路が突込んだ様だ。水深30～40㎝位で比較的早い流れだ。2号3号車水際で停止後、2号車に命網をつけ浅い所で待てとGOをかけた。3号車とトレーラーはシケの海の小舟の様に大揺れだ。第3の難所で2号車が亀になる。命網が役に立った。グルの町に夜9時到着、水没道路突破の疲労で寝てしまった。近藤隊長の1号車も迂回路で難儀を重ね、到着は翌朝5時だった。

誰かが歌う「月の砂漠」がやけに心にしみる

1月5日（金）エジプトのカイロを目指しさらに北進、エジプトの南にあるスーダンに入国、悠々と流れる大河の辺りで身を清め、我々一行はスーダンの砂の海に入る。

何物をも熔融すような太陽もやっと遥か彼方の地平線から姿を消すと、伸ばせば手が届きそうな星のシャンデリアが現われる、仲間の誰かが歌う「月

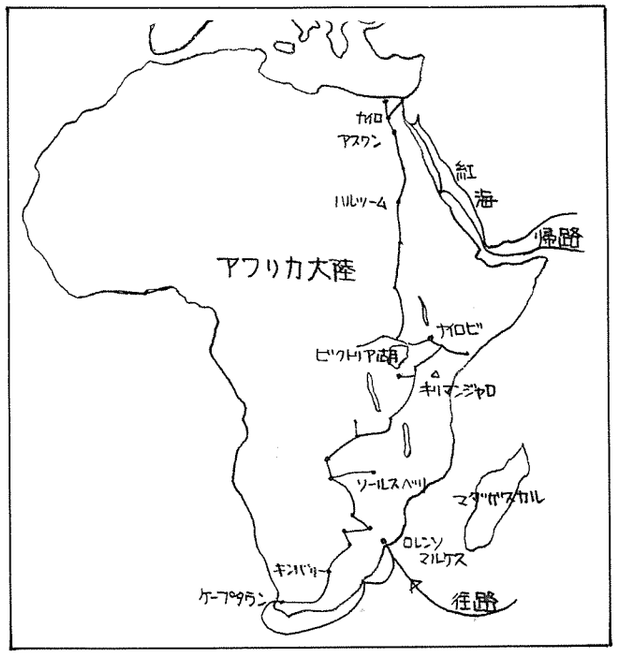
の砂漠」がやけに心にしみる。

我々調査隊の最終コースであるエジプトに入り、ナイーブな顔立ちの新世代の女性と、目だけ出してあとは黒布で被っている旧世代の女性との対照が興味を引く。

1月28日（日）曇一時小雨、寒い日だ。東京農業大学アフリカ縦断動植物総合調査隊の解散ディナーパーティがヒルトンホテルで開かれた。日本人として初めてアフリカ大陸縦断をなしとげたのは、近藤隊長のもとに団結し、一致協力のたまものであった。

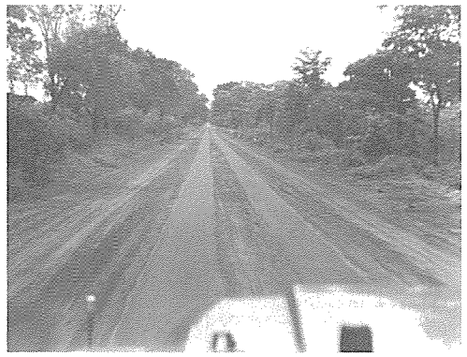
1961年晩秋から翌年初春までの3ヶ月間言語や風俗習慣が違う異邦人ながら、現地の人々と心をかよわせ、お互いに理解し得るとの自信を持つ事が出来た。

キリマンジャロの雪解け水が、母なる大河ナイルの水が血肉に残る間は、ふたたびこの太陽と砂漠の大陸、アフリカに来ると伝えられる通り、いつの日か再度、この大陸に足を踏み入れることだろう。



船はハンブルグ丸でエジプトのポートサイドで乗船し神戸港で下船した。1962年3月13日昼ごろ

日記「アフリカに行って」より抜粋



南ローデシヤのレールウエー

南ローデシヤ南部でのキャンプ

タンガニイカの国道

バオバブと蟻塚

バンツー族の御婦人

アフリカの花鳥昆虫展　1962年7月

新潟小林デパート

歴代役員名鑑

	～33.8	33.9～	34.9～	35.9～
部長				近藤　典生
監督				池淵　純
助監督				山縣　高一
〃				寺田　正寛
主将	山縣　高一	菅　直利	寺田　正寛	溝口　正信
副将				長　信一郎
幹事	笹原　善助	笹原　善助	長　信一郎	平松　宏之
マネージャ	菅　直利			
会計	笹原　善助	伊藤　光夫	溝口　正信	酒井　忠弘
書記				児玉　信行
運転指導	坂下　年宏		長　信一郎	
〃			安原　肇	
学連委員		戸井田能郎	寺田　正寛	深見　俊夫
〃		寺田　正寛		

	36.9～37.1	37.1～	38	39
部長	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生
監督	池淵　純	池淵　純	池淵　純	池淵　純
助監督	山縣　高一			
	寺田　正寛			
主将	溝口　正信	新井　忠夫	原田　皓三	阿部　正幸
副将				
幹事	森井　康雄	原田　皓三	久武　昌稔	斉藤　徳彦
マネージャ	平松　宏之	片岡　二郎	関屋　彰史	遠藤　守衛
〃			比留間秀雄	
会計	深見　俊夫	大島　陽二	大島　陽二	前　光洋
書記	永島　秀雄		波津久清久	安達　和良
運転指導			星野　勇介	前田　莞爾
〃			阿部　正幸	坂上　美昭
女子主将		鈴木　芳江		
学連委員	新井　忠夫	西原　弘人	斉藤　征夫	森　恭章
〃	稲尾　律司	香取　秀郎	高橋　貞臣	黒田　剛
〃			香取　秀郎	
学連女子		小峰　顕美		羽住勢以子
〃		古川　篤子		
武連委員		藤谷　芳子		
〃				淡輪　昌治

	40	41	42	43
部長	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生
監督	池淵　純	池淵　純	池淵　純	池淵　純
主将	森　恭章	久米　正毅	丸　淳	高木　伸一
副将				清水　憲嗣
幹事	渡瀬　克彦	寄神　宗美	黒沼　幸男	有村　健男
マネージャ（主務）	鈴木　勲	深沢　邦治	箕面崎文彦	富沢　貴
〃	左奈田英夫	福地　進而	高木　伸一	山本　耕平
会計	宮入　和利	佐藤　紀義	藤川　正博	渡辺　哲夫
書記	今津　正規	木下　文則	坂本　和直	沖塩　昌太
〃		中山　義也	向井　義昶	三箇　滋
運転指導	平田　圭	里見　弘彦	徳丸　進	大高　正俊
〃	久米　正毅	加山　源治	能美忠たか	中西　久彦
車両責任者				佐々木信雄
フィギア責任者				吉本　重徳
ラリー責任者				原田　行人
学連委員	山梨　正興	三浦　光宏	高木　伸一	小沢　伸司
〃	赤羽　徳門	赤羽　徳門	能美忠たか	徳江　清東
学連女子	田口美恵子	中島摩利子	稲垣真理子	越前　栄子
〃	蜂巣　瞭子	浅野　直子	越前　栄子	
武連委員		久保　佳雄	清水　憲嗣	伊藤　建夫
〃	山梨　正興	深沢　邦治	後藤　公男	本間　和弥
武連女子	辺見　潁喜	鳴原　厚子	佐藤いく子	佐藤いく子
〃		岡村　一恵	武井　純子	
ＯＢ係		赤羽　徳門	後藤　公男	

	44	45	46	47
部長	近藤　典生	近藤　典生	小林　正	小林　正
顧門			近藤　典生	近藤　典生
監督	池淵　純	池淵　純		斉藤　徳彦
主将	佐々木信雄	染谷　元秀	番場　裕介	吉野　孝道
副将	有村　健男	甲斐　清	須賀　透	叶野　力
幹事	小林　士郎	須賀　透	叶野　力	犬童卓一郎
マネージャ（主務）	富田　育臣	竹井　英明	上平　一郎	石渡　康郎
〃		高田　長久		河津　克司
会計	甲斐　清	高田　長久	武田　邦典	北山　友美
書記	柴田　正外	前内　泰治	梶浦　唯乗	山下　博行
〃	加藤　典夫	番場　裕介		木村　泰博
運転指導	松本　良一	下田　耕司	小沢　博	番場　隆
〃		角田　隆紀		石田　真
フィギア責任者	染矢　元秀	西森　英治	吉野　孝道	満山　喜一
ラリー責任者	柴田　正外	望月　敏男	林　勝男	星野　知司
整備責任者	加藤　典夫	番場　裕介	大島　孝史	秋山　通
学連委員	楠　律夫	角田　隆紀	小沢　博	番場　隆
〃		前内　泰治		
学連女子	柴山　雅子			
武連委員	早川　富雄	高久　喜昭	武田　邦典	間瀬　英生
〃		下田　耕司		
武連女子	鳥海　利子			
〃	和泉　礼子			
ＯＢ係			小沢　博	河津　克司

	48	49	50	51
部長	小林　正	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵
顧門	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生
〃		小林　正	小林　正	小林　正
監督	斉藤　徳彦	斉藤　徳彦	斉藤　徳彦	斉藤　徳彦
コーチ	福地　進而	福地　進而	福地　進而	村田　信雄
〃	清水　憲嗣	清水　憲嗣	清水　憲嗣	小林　士郎
〃	村田　信雄	村田　信雄	村田　信雄	高久　喜昭
主将	北山　友美	田中　芳文	岡田　正人	下林　哲也
副将	長島　均	永井　充治	村上　佳己	谷　真史
幹事	平野　均	村上　佳己	谷　真史	石川　実明
マネージャ（主務）	永井　充治	岡田　正人	黒野　幹彦	門傅　恵
〃	上野　晃一	川井　裕二	下林　哲也	吉野　徹
会計	高城　正樹	山本　嘉亮	深沢　初正	笹沢　達雄
書記	諸井　道雄	原田　泰	安部　高之	上土井正薫
運転指導	幸元　敏	岡田　正人	河津　良隆	上土井正薫
〃	宮崎与四郎	吉田　耕三	角田　幸子	笹沢　達雄
フィギア責任者	田中　芳文	村上　佳己	下林　哲也	門傅　恵
ラリー責任者	津雲　保	吉田　耕三	都丸　正隆	中谷　章
整備責任者	桜井　清一	山本　嘉亮	井出　新次	石川　実明
ジムカーナ責任者		尾倉　英行	河津　良隆	吉野　徹
学連委員	城後　博幸	尾倉　英行	谷　真史	中谷　章
武連委員	小沢　正和	尾倉　英行	都丸　正隆	中谷　章
OB係	上野　晃一	川井　裕二	下林　哲也	吉野　徹

	52	53	54	55
部長	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵
顧門	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生
〃	小林　正	小林　正	小林　正	小林　正
監督	斉藤　徳彦	斉藤　徳彦	斉藤　徳彦	斉藤　徳彦
コーチ	村田　信雄	村田　信雄	村田　信雄	村田　信雄
〃	小林　士郎	小林　士郎	小林　士郎	小林　士郎
〃	高久　喜昭	高久　喜昭	高久　喜昭	高久　喜昭
主将	門傅　恵	小川　良一	福田　一成	森　郭安
副将	石川　実明	宇都木茂樹	鈴木　克幸	雨池　信行
幹事	小川　良一	福田　一成	森　郭安	黒田　亮一
マネージャ（主務）	宇都木茂樹	鈴木　良幸	雨池　信行	永井　寛之
会計	臼倉　良尚	鈴木　克幸	立花　隆人	立花　隆人
書記	斑目真由美	井上　陽子	都　信親	小板橋正晴
渉外				鈴木　公平
運転指導	川村　信世	鈴木　良幸	森　郭安	黒田　亮一
〃			都　信親	
フィギア責任者	宇都木茂樹	大塚　利雄	柏原　茂	柏原　茂
ラリー責任者	石田　安弘	鈴木　克幸	鈴木　公平	黒田　亮一
整備責任者	松岡　正行	篠崎　誠	木暮　美継	小板橋正晴
ジムカーナ責任者	小川　良一	福田　一成	立花　隆人	永井　寛之
学連委員	川村　信世	篠崎　誠	岩辻　一晃	岩辻　一晃
武連委員	川村　信世	福田　一成	関口　保	関口　保
OB係	宇都木茂樹	大塚　利雄	須関　秀典	須関　秀典

	56	57	58	59
部長	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵	淡谷　恭蔵
顧門	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生	近藤　典生
〃	小林　正	小林　正	小林　正	小林　正
監督	斉藤　徳彦	村田　信雄	村田　信雄	村田　信雄
コーチ	村田　信雄	小林　士郎	小林　士郎	小林　士郎
〃	小林　士郎	高久　喜昭	高久　喜昭	高久　喜昭
〃	高久　喜昭	小川　良一	小川　良一	小川　良一
主将	黒田　亮一	稲垣　昌弘	大野　喜裕	大野　喜裕
副将	永井　寛之 小板橋正晴	宮坂　裕之		
幹事	稲垣　昌弘	稲垣　昌弘	仲村　清輝	仲村　清輝
マネージャ（主務）	村谷　健一	村谷　健一	大川　和利	大川　和利
会計	宮坂　裕之	宮坂　裕之	中村　雅量	中村　雅量
書記	山本ひかる	山本ひかる	石垣　稔	石垣　稔
渉外		伊藤　裕彦	金井　和宏	金井　和宏
〃		我妻　康雄		
運転指導	宮坂　裕之			
車両責任者		片上　裕之	中野　利明 大野　喜裕	中野　利明 大野　喜裕
フィギア責任者	我妻　康雄			
ラリー責任者	広川　哲也			
整備責任者	片上　裕之			
ジムカーナ責任者	伊藤　裕彦			
練習		宮坂　裕之	襟川　仁志	襟川　仁志
〃		我妻　康雄	大甕　和久	大甕　和久
〃		広川　哲也	木暮　重仁	木暮　重仁
学連委員	我妻　康雄	我妻　康雄	仲村　清輝	仲村　清輝
武連委員	伊藤　裕彦			
OB係	村谷　健一	田村　文男	石垣　稔	石垣　稔

50年の出合い

前監督　斉藤　徳彦

農大自動車部半世紀の歴史の偉大さ又、存続と尊厳を考えますと、自動車と云う物を通して多くの人々が出合い、共通の目標に向い、共通の課題を背負いながらその時代、その時代を精一杯の努力をした人達の蓄積が正に50年の歴史であり現自動車部を取り囲む姿であろうと思います。

私も卒業して17年、当時の事は昨日の様にも思われますが、入部以来21年が圧縮されてしまい、思い出が重ってしまうのも老化現象でしょうか。

卒業後も自動車部後遺症が残り自動車業界に入った事もあってか、監督と云う重責を負う事になりました。御世話になった東京農大、又自動車部に少しでも恩返しと気負って見たものの、思うに任せず部長顧問コーチ現役に御迷惑をかけてしまった事申し訳無く思っております。

現役時代の思い出に触れてみますと、まず念願の大型車購入がありました。昭和36年６月の初め、東急車輌の御世話で入手出来たのがＤＡ70でした。その日両国の材木店へ見に行きました所、肌色のボディーにワックスが効いており年代からすると極上品、手入の行き届いた室内と足もとの白いピラミッドが印象的でした。１ケ月後に控えた第５回北海道遠征に使用する為、スクールカラーに塗装、定員外乗車の改造と申請は出発２日前に仕上り、無事全行程走破しました。

しかし約１年後伊豆の大室山でクランクシャフトが焼付きを起し、折悪く上陸台風の中合羽を着てのエンジン外し作業は、風速40メートルに立ち向く石原裕次郎張りのシーン。６日後にエンジンの快音を聞いた時の喜びはひとしおでした。私の青春、大学生活は自動車部無しでは語る事は出来ません。ラリー、フィギュアー、サーキットラリー、整備競技大会等その一つ一つが青春であり、体当りでした。

この50周年を期により一層の発展を期待し、“人との出合いを大切に”を申し上げ筆を置かせていただきます。

メタセコイヤの木＝部屋＝

現在近藤先生がおられる進化生物学研究所（旧育種学研究所）の西側道路際にメタセコイヤの木がある。この木の前が我々の部室であった。

昭和36年、当時部長の近藤先生が、大切なご自分の研究農場の一角を部室敷地として我々に提供して下さったのである。部屋は工学科の先輩が設計した廃材で建てられたが、広さはようやく机が一つ置ける程度の建物であった。建設は、牛フン、馬フンとワラから成る堆肥の撤去から行なわれたが、これが一苦労、その臭いと踏むと足元からしみ出る褐色の液体にはホトホトまいった。

部室前道路の道普請は一年生の仕事

雨上りのミーティング

メタセコイヤの木は、「この木これを境界にして北側」と先生がいわれたので、他のカラタチの木とは異なり我々に引きぬかれる事もなく先き長がらえたのである。

又この木は部室の門を作るときの一方の門柱として利用された。部室がここにあった10数年の間、新入生の運転する車のバンパーに引っかけられたり、廃油をかけられ、ゴミ焼却の火で葉をこがされもしたが、毎年毎年すくすく成長し気が付いたら太さ10㎝にもなっていた。

自動車部の看板は、部室完成祝賀会後に先輩がどこからかはずして来て表面にカンナをかけたものであり、裏にすると「本日休業」と朱書してあり、部室の最終退出者が裏返しにする事となっていた。

部室前は温室と畑であり、春には桜草が咲き乱れ、まことにすばらしい環境であった。

現在メタセコイヤの木は10㎝程に成長したこの木は恐竜時代に地球に茂った〝生きた化石〟という事だ、その高さは100ｍを越え直径数10ｍになるという。次の50年記念には世田谷名物になっているのではないだろうか。

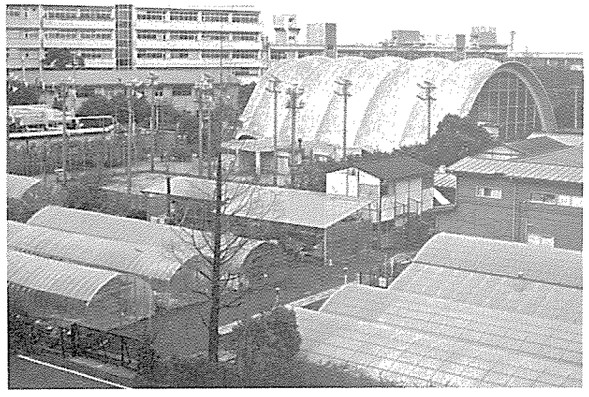
隣りに高層マンションが建設され

風害が発生屋根の重しはタイヤ

ゴミの中のメタセコイヤ

数回の改造で２階も付いた部屋、

ここに住み込んでしまったのはだれ？

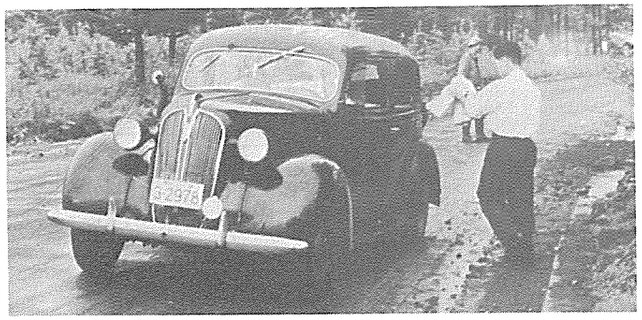


メタセコイヤはどこまで大きくなるか……

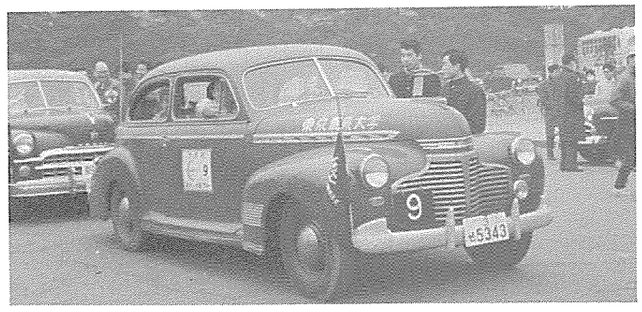
心に残る部車

自動車部、それは車と人間との調和である。半世紀の歴史の中で、我々の手で修理・整備された車は100台を下らないだろう。

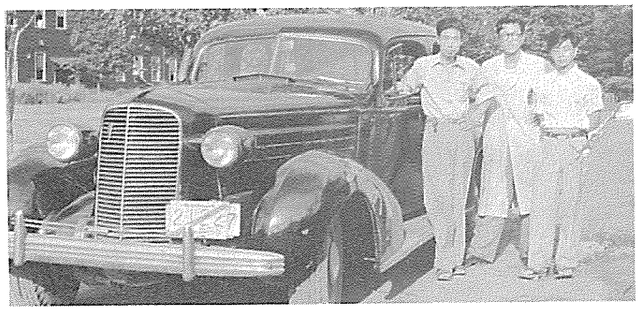
一つ一つの部品にも汗と油、そしてその時々の皆の思いがしみ込んでいる。日光であせたボデーを満心の力でみがき上げれば、心は自ずから車に伝わる…あの車は2番ピストンのオイルリングがゆるくて……　こいつはセカンドギアが入りにくくて……



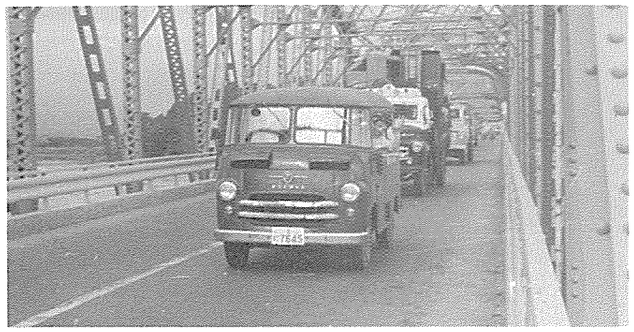
プリムス1937年



シボレー1941年

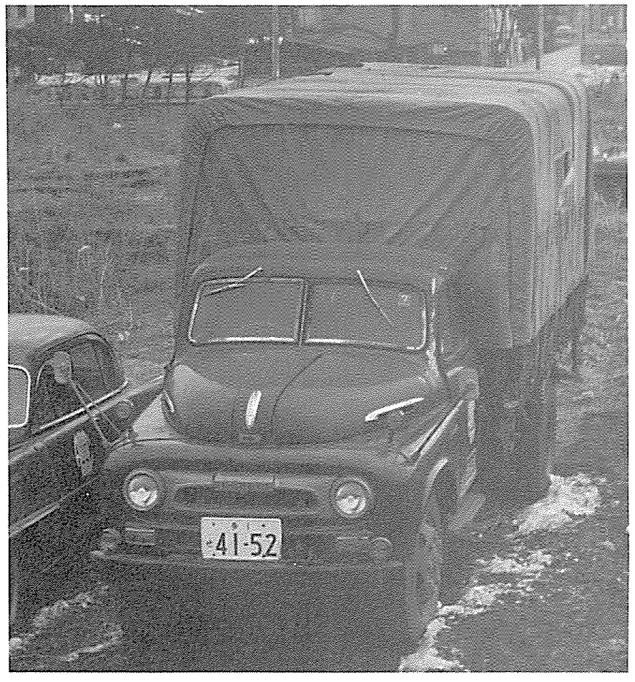


キャデラック 1936年



プリンス

キャデラック 1953年



トヨタDA70　1957年

クラウン1960年

プリンススカイウェイ

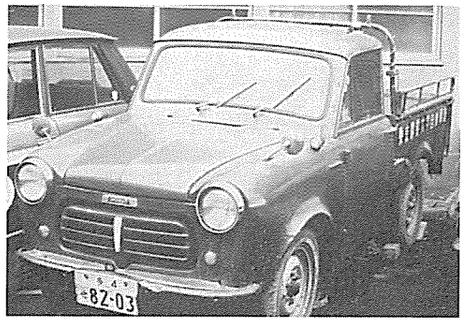
ニッサンパトロール

ダッヂキングスウェイ

カスタム

左・オースチン

右・ブルーバード310



ダットサントラック1957年

ダットサンセダン

1958年

ニッサンキャブオール1965年